

長畝ふるさと通信



【2020年6月号】

■ 新たな日常のスタート？

コロナウィルス感染防止のための緊急事態宣言が解除され、新たな日常がスタートしましたが・・・とりあえず学校は再開されたものの、「ソーシャルディスタンス」とやらで隣のお友達が落とした消しゴムさえ拾ってあげられないとか・・・飲食店では通常の半分しか入ることができず、しかもアクリル板のついたてが間に入るとか・・・県をまたいで移動することも許されたとはいえ、「よそ者」は白い目でにらまれるだとか・・・無観客でのプロスポーツってどうなん？。

この半年間で国民の生活は一変してしまいました。ところがおコメの生産現場はというと・・・全く変わっていません。

6月に入ると「中干」が始まり、毎日草刈りと溝切に追われ、大豆の播種をして朝晩は田んぼを見て回る。家に引きこもることもなく、昨年と何ら変わることはない日常生活です。佐渡ではインバウンドを含む観光客が激減して、県外ナンバーの車をほとんど見かけなくなりましたけど、毎年我が家でヒナを生むツバメはいつもと変わらず、今年も5羽のヒナを巣立ちさせました。



■ 生きものたちも変わらずに

6月14日に行った「田んぼの生きもの調査」では10aの田んぼの畦道で約250匹のアマガエルを数えました。しっかりと数えれば恐らくその倍以上はいたでしょう。田んぼの中干が始まることを知っていたかのように、慌てて畦を登っていく子カエルが遅く見えました。



17日にはトンボの一斉羽化を目の当たりにしました。早朝5時過ぎ、ヤゴの背中を割って出てきたばかりのトンボの羽は透明で、朝陽に反射してキラキラ光ります。羽が乾くと一斉に飛び立ち(バージンフライ)、田んぼ一面トンボだらけ。ポツンと眺めるボクの顔や頭に容赦なく体当たりして喜んでいる様子。苗に残されたヤゴの抜け殻が寂しそうにしがみついて哀愁を感じます。

■ 中干ビフォーアフター

6月10日から「中干」に入って溝切をし2週間経過した写真です。



株も草丈も倍増していますが、中干をさぼるともっと株が大きくなって養分を消化してしまい、秋に実るコメ粒が痩せて小さくなってしまいます。6月18日から梅雨に入りましたが雨は殆ど降らず、おかげでしっかりと中干ができました。今年は立派なコメが出来る予感・・・

■ インターナショナルしています

6月15日から「ワーキングホリデー」でドイツから来てくれたポール君を受け入れています。ワーキングホリデーとは2国間の協定に基づいて、青年(30歳まで)が異なった文化の中で休暇を楽しむながら、その間の滞在資金を補うために一定の就労をすることを認める特別な制度の事で、原則として各相手国ごとに一生に一度しか利用できないそうです。彼はまだ19歳ですが母国語の他にフランス語も英語も日本語までも話せる秀才くんです。昨年の9月から東京で働いていましたが、コロナの影響で働き先が無くなり、「日本の田舎暮らしをしてみたい」という念願が叶って佐渡へ来てくれました。片道5キロの道のりをボクが貸してあげた自転車でやってきて、日焼けに苦戦しながら真面目に田んぼ仕事をし



ています。「じゃぱにーずふぁーまーはあるこーるこみにゆけーしょんがべりーいんぽーたん(日本の百姓は酒呑んで仲良くなるのが大切)」と流ちょうないんぐりっしゅで教えてあげると「OK！」



と笑いながらビールをぐびぐびと呑むのです。ちなみにドイツ人は18歳で「大人」になるそうで・・・。8月のお盆までに立派な「らいすふいーるとまん(田んぼ男)」に育て上げて見せます。

左のキレイな花は「tachiaoi」です。梅雨入りの頃咲き始め、梅雨明けと共に花期が終わる。コロナのtachiaoiはないでしょうか・・・。